

「日本酒への情熱」 *La passion du saké* というブログの作者兼著者であるシルヴァン・ユエはフランスには稀な日本酒の専門家の人である。数年に渡って定期的に足を運んだ酒造メーカーに寄り添いつつ、彼はただ一人の真に独立したエキスパートとして、大衆の教化と専門教育のために、2010年「[日本酒アカデミー](#)」を創立することを決意した。

自分自身では輸入業者でも販売代理店でも販売者でもないがゆえに、彼は市場関係者のいずれとも優良な関係を深め、関係者との競合にならないどころか、逆にどの部門の発展にも平等に貢献することができた。この独自の立ち位置のおかげで、彼は2013年にパリで日本酒サロンというイベントを始めることができたが、今ではこの種のイベントとしてはヨーロッパで最も重要なイベントになった。

彼はまた日本の組織や酒造メーカーだけでなく、関心を持つヨーロッパ企業に対して、コンサルティングや報道関係への橋渡しといったサービスを提供することによって、フランスやヨーロッパにおける日本酒の市場の拡大に貢献している。

日本の定番グルメ雑誌『DANCYU』の2015年2月号の日本の飲み物特集で、世界的に知られた日本酒ジャーナリストのジョン・ゴントナーが自分の記事の中で次のように書いている。「シルヴァンは日本酒の尖兵という称号を持っている。飽くなき活動を行う優秀な人物である。フランスでは彼の活動は円熟の域に達し、私は今や彼がヨーロッパにおける日本酒の発展に不可欠な人物と考えている。」

履歴

「1970年ポワシー生まれ。型破りな経歴をたどり、大学の理系を卒業後、モダンダンサーになる。10年キャリアを積む中で、一人の合気道の達人に出会うが、それこそが日本の伝統芸術に対する情熱の出発点となり、それ以降年に何度も訪日するきっかけになった。この日本武道を修行しはじめて20年が過ぎた（また、2009年までパリで合気道を教えてもいた）。日本独特の美食と日本酒を発見してからは、日本の最高のプロフェッショナルたちに混じって学殖を積んだ（彼はいまや米NPO団体[S E C \(Sake Education Council\)](#)「日本酒教育評議会」から「日本酒シニアプロフェッショナル」として公認された唯一のフランス人となった）。日本語を習得したおかげで、酒造メーカー（「酒蔵」とも言う）訪問のための数知れない日本滞在を無駄にせず、数年後には数々の伝統的な酒造で日常を過ごすことで酒造りのすべての工程を体得することができた。

文化交流基金のお陰で、2009年、日本に移住して最古の茶道の学校の一つに入った。翌年フランスに帰国してからは、他のすべての活動から手を引いて、自己学習とか講義とか執筆とか試飲、さらに自分が企画したり参加するイベントなど、日本酒に自分の時間の100%を捧げたのだ。

2012年フランス人に酒を知ってもらうための専門知識と努力が認められ、酒造メーカーのものから「日本酒サムライ」として聖別された最初のフランス人となった。翌年、友人のレ

レストランオーナーと共に、パリにヨーロッパ日本酒サロンをオープンし、開設当初から大衆からもメディアからも大変な認知度を得ることに成功した。

酒に対するフランス人の関心の高まりとともに、ホテル学校や美食学校からレストランや専門家サロンなどでの協力要望がますます増えている。フランス人ジャーナリストを始めとした専門家たちの日本の酒蔵の見学旅行に同行し、説明員を買って出るばかりでなく、一般市民への普及も忘れてはいない。例えば、昨年パリのグラン・パレで行われた北斎大回顧展を利用して約 280 の参加者を得て 10 回以上に及ぶ日本酒のワーク・ショップの司会役を果たした。

現在、200 以上の酒蔵を訪問することで知った日本酒学（サケオロジー）に特化したフランス語の参考書を執筆中であり、パリで 2016 年 10 月 24 日から 22 日に開催される第三回日本酒フェアの準備中である。

